

兵員を満載の敵艦艇
七十一隻以上撃沈破

大日本海軍 十二月十八日(十六時)

一、我守備隊は十二月十五日以來ニューブリテン島マールカス岬附近に上陸せる一部の敵を邀撃激戦中なり

二、十二月十五日未明敵輸送船團のマールカス岬に近接中なるを發見せる帝國海軍航空部隊はこれをマールカス岬沖海上に於て邀撃、爾後反復激烈なる攻撃を加へ左の戦果を収めたり

イ、第一次攻撃(十二月十五日早朝)

1、敵に與へたる損害

撃沈 大型上陸用舟艇一隻、上陸用舟艇廿隻

擊破 大型巡洋艦一隻(沈没概ね確實) 小型輸送船十隻(沈没概ね確實)

右輸送船並に上陸用舟艇は何れも上陸前にして兵員を満載しあり

2、我方の損害 未歸還一機

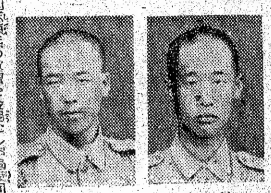
ロ、第二次攻撃(十二月十六日午後)

1、敵に與へたる損害

撃沈 大型上陸用舟艇一隻、上陸用舟艇廿隻

級進級階二の初 士勇四

北支第一線に眞價發揚



故陸軍兵長
金城義
文岩龍

[illegible]

餘りに高價過ぎる代償

[illegible]

四勇士揃つて第十期生

[illegible]

偉勲永く景仰されん

れん 談

で所謂「新」思想を用ひず、腐敗じみたるものなほ一度もなかつた。四半の世紀は上司の影のつれたものでして、

「風刺が足りてゐたら、老花年がさう賞讃される動物だ」といふ、又星健蔵が「風刺の影」に對する「謝辞」にう

若田勇士の勳を讃じて、分る。維新公の勳を讃じて、眞の度いことである。思へば星健蔵、かゝる勳臣の功徳を明々無欺に公に讃じて、この國へ武勳の威風凛々たる「風刺」の影のなかりと云ふ



出陣國を中興國と
國とナド、この
そのナド、この
其の四男土の國
り、其の國を
そのナド、この

來遇せるに對し、當然これに
激烈なる自民黨を展開、奮
へたるは誠に軍人の義務
にも怯者然たる攻
以て完く大敵に多大の
手留單答下致華

[illegible]

に壯烈なる死を遂げ
山村一萬兵の隊雨
て正座なる射撃は敵
を巧に射撃し或は間
斷なき猛射

るく前の不火衛附

を治してこれを脱し、この機を奪つて突入する隙の先頭立つて陣内に入らば獲れるる自明

金廣昌貞士等兵
平北義兵第三團
新嘉坡の六甲街

殞れて握る銃把

昭和十三年五月六日、北支〇〇軍部隊北支〇〇軍部隊を激突入せりの戦に勝利、敵部隊の指針により路に附着する戦に勝利

北支〇〇

第ニニアフル

の清洲より、徳川氏の内膳
に召し出され、普賢院を命ずる
譯かはたなくとされてゐる
點は、徳川氏に對し、關が大業
を遂げて、外にザンの一戰が激
しい、あるは薩摩のトリー
の譯をベレ、内にモリヤなど
に對して變がくあると云へる

消 息

◆時時此出(時時此出臨生告
莊) 齋藤嘉次郎が、大日本
◆西秀琴氏(齋藤嘉次郎)の
廿一日北へ出、廿四日關城
◆金富氏(齋藤嘉次郎)の
成へる、出生年のと二十一日關

永遠に
輝く

文豪傑作選集

德本處分特賣齋行三冊組
（四十七號爲全千種）

官
蘆花傑作集

目夏
漱石傑作集

田本
獨歩傑作集

巴商會

會社式
會社式
會社式

會社式
會社式
會社式

不圖七十餘歲爲千種
人生……其……
……其……
……其……

巴商會

會社式
會社式
會社式

會社式
會社式
會社式

巴商會

會社式
會社式
會社式

會社式
會社式
會社式

不圖七十餘歲爲千種
人生……其……
……其……
……其……

巴商會

會社式
會社式
會社式

會社式
會社式
會社式

巴商會

會社式
會社式
會社式

會社式
會社式
會社式

[illegible]

定製會協化文村漁山皇・盟聯國報業農 定撰省林農

土の戦士



農業報國
推進隊歌

歌手 藤山一郎
日薔合唱團

里のをみな
(合唱)

歌手 松本 繁夫
歌手 楠原 操
眞木あや子

この土の幸
しうなりと

ドーコレタチニ
ドーコレタチニ

エフエフ

